

# 来月、染色の工房開設

## 丸井織物 開発の時間短縮狙い

丸井織物（石川県中能登町）は4月、染色の研究工房「D-スタジオ」を開発する。外注していた生地染色テストなどを自社で担い、開発から製品化までのスピードアップを図る。織物メーカーが染色の試験設備を持つ例は全国的にも珍しいとされ、染色工程に適合した完成度の高い素材開発にもつなげる。

00平方メートル写真IIを改装し、染色の試験機などを導入。染めの専門知識を持つ社員も雇用した。総投資額は約5千万円。量産の染色

については、従来通り産地の染色工場に委ねる。同社製品の企画から試験、染色までには現在60〜90日ほどの日数がかかっているが、自社工場の稼働でこれを15〜30日程度に短縮することを目指す。

宮本徹社長は「染めは人任せという姿勢では良いものづくりはできない。開発者の意識が変わることを期待している」と述べた。今年（2013年12月期）の売上高は前期比7%増の約70億円を見込む。

### 子会社に一部生産移管

#### 裏地と資材織物の拠点に

丸井織物は13日まで裏地と資材織物の生産を子会社良川サイジング（中能登町）に移管した。これまでも生産の一部を委託していたが、関係強化のため2月末までに全株を取得、完全子会社化した。子会社は中国の「丸井織物（南通）

有限公司」に続き2社目となる。

良川サイジングは1952（昭和27）年、地元の機屋経営者らが共同出資で設立。合繊織物生産を請け負い、

2012年3月期の売上高は3億4500万円。昨年、鹿西地区に本社工場を移転。織機



2月末に完全子会社化した繊維製造業、良川サイジング（同町）敷地内の既存建屋約7

を104台から250台超に増設したほか、人員も倍の60人体制としており、子会社化以降も雇用は継続する。